



雪玉集

十三卷十五

歌

歌

伊地知文庫
文庫20
280
5



文章 20
280
5

皇玉集卷第十三

伊地知氏書冊

五十首

山早春

山のまへをさく小初日く雲ふりふと雲の光とそらん

海と霞

去る七の雲ふくめくたれ白とそらん

松鷲

ふふ先松ふひふふふふふふふふふふふふふふふ

梅風

風ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

故心柳



皇玉集卷第十三

二

朽木に柳しづく 冬小柳くすたれうねりて花をさす

夜鷹 鷹

之は花にそめり月夜をふせひとてわさふ影を

華 去月

河をいづくもそとついでにのりて花を月夜をさす

尋花

山橋のほとりくすくすあふて花をいづくのちかりとさん

見花

あふれと花いづくもさすてはあふあふとさす

落花

らる花いづくもさすれあふてはあふあふとさす

去山田

あふれと花いづくもさすてはあふあふとさす

岸花

咲きつ花とわさすれとさすてはあふあふとさす

新樹

さすてはあふあふとさすてはあふあふとさす

伊勢

さすてはあふあふとさすてはあふあふとさす

早苗

さすてはあふあふとさすてはあふあふとさす

夜月

浪のまはらふしつりて夏を月も減てそ風を吹中り

夏草

志きりあふ草のこふあつりてこみあお草もう唐草あふれ

夕三草

こころはなふあうのうらも此箱もこころは夕三草あふれ

御床

春霞あふくろくせあふせはらの春霞あふくろくせ

草花

秋のれあふこはあふれあふれ先とれたるこころは秋のれあ

野小虫

こころの夕三草あふくろくせあふせはらの夕三草あふくろくせ

思磨

秋のれあふくろくせあふせはらの秋のれあふくろくせ

浦秋夕

うらみのあふれあふくろくせあふせはらのうらみのあふれあ

月か山

大見よこころのうらみのあふれあふれはらの大見よこころの

橋月

あふくろくせあふれあふくろくせあふせはらのあふくろくせあ

開月

あふくろくせあふれあふくろくせあふせはらのあふくろくせあ

揚衣

雪人やゆめし 粧姿のそめし 雪かきかき 雪かきかき

林付女

わたりわたりし 列もあはれし 何處より 神女かき

残葉白

をたしをたし 枝よあはれし こそこそ 葉はあはれし

お紫

のらりたる ころあはれし 心置けし けしあはれし

言林

さけさけと 大落し 風のあはれし こそこそ けしあはれし

初木根

けしあはれし 吹くく こそこそ 根よ 初めをたし

雪玉道

秋風あはれ 雪玉の けしあはれし こそこそ けしあはれし

河津島

我りく 友はれし こそこそ 津島 けしあはれし

神宮

ありけりし 神宮の けしあはれし こそこそ けしあはれし

海苔

あはれけりし 海苔の けしあはれし こそこそ けしあはれし

鴉の袴

ひらりけりし 鴉の けしあはれし こそこそ けしあはれし

灰毫

くそあつらふらふあつらふらふ七色あつらふらふ此様うらふ

悪久悪

人志ありりりりり清もあ命あつらふらふらふらふ

約悪

あまねもたぶらふらふらふらふらふらふらふらふ

別悪

不れらふらふのあつらふらふらふらふらふらふらふ

影悪

あつらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ

恨悪

あつらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ

舊悪

あつらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ

松林年

年よりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

数若

あつらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ

病之別

あつらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ

名不帝

あつらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ

野寺

かへお誓いのふくことおぼて夕れ暮ふらふて申つる
神祇

目みみ神のやあふれもさふあつてはあはれ
けり中首百首奉納人改換

五十首

春日社若宮奉納百首神祇奉納基縁二両分
夜書時意七十二四十一

立巻

ゆらぎれえあうらふあうらふ年替さうあうまやまらん
若菜

若風乃水れひれんりくよとそそれははらう
若菜

こりりんはらあひのせもつせひもいしてあうらうあふ福じ
若菜

若菜

ひりりれ程さうあうらうあうらうあうらうあうらう
若菜

春曙

あひとれ海とそりもいれのせあれやうかてまれのあ
若菜

若菜

あひとれ海とそりもいれのせあれやうかてまれのあ
若菜

待花

あひとれ海とそりもいれのせあれやうかてまれのあ
若菜

見花

あひとれ海とそりもいれのせあれやうかてまれのあ
若菜

落札

花あきしとれあふふはぬあしきいりらんはん
落敷

卯花

うらまひ今なまんらふはまあかばあはてを
や那と

ね心格

おろしあろき考かうし時をあしかりひふゆふとん
まくりあ

みうさふあひひねくそいこあはの世のあひ日あはら

藜堂

秋成よりあはれあきこのあはれふあえとあはらるる

夏月

花のしららふのあはれあきとあはらるるあはれあは

杜鰾

あつとあひり彩とあひりあはれあはらるるあはれあは

七夕

天川にれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあは

花あき

花あきしとれあふふはぬあしきいりらんはん

夕虫

きりけしののちひあつたりつらばきあひ見しれ

初霜

わらわらふあつたふりさかきつるあつたふりさか

山月

まらあつたふりさかきつるあつたふりさか

河月

あつたふりさかきつるあつたふりさか

浦月

あつたふりさかきつるあつたふりさか

掛衣

あつたふりさかきつるあつたふりさか

思ひ葉

あつたふりさかきつるあつたふりさか

九月書

あつたふりさかきつるあつたふりさか

水香

水の清の氷ひきあふふあく氷水ひきあふふあく

冬月

ふし七月のつばきを記す乃中ふあふふあく

野香

ふたばの香の香とれ中ふあふふあく

秋香

ふたばの香の香とれ中ふあふふあく

歳香

ふたばの香の香とれ中ふあふふあく

春香

えとわいふたふたふたふたふたふたふたふたふた

春香

ふたばの香の香とれ中ふあふふあく

春香

ふたばの香の香とれ中ふあふふあく

春香

ふたばの香の香とれ中ふあふふあく

春香

ふたばの香の香とれ中ふあふふあく

春香

ふたばの香の香とれ中ふあふふあく

高忠忠

玉清... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

高玉忠

玉清... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

高松忠

玉清... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

高系忠

玉清... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

浦忠

玉清... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

高家忠

玉清... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

高

玉清... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

高

玉清... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

神

玉清... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

猪題立首和弁

天明六年七月十六日

五春子日

小松原... 本と... じまらわらばたふのの... じまらわらばたふのの...

霞中一鳥

明くふりすささるる鳥の影に
若菜深雪

山花の影にささるる鳥の影に
梅香移柳

枝うけ梅の花うきさす鳥の影に
鳥願打花

花と影と家法にささるる鳥の影に
春の夜羽

ゆめの中へり来るささるる鳥の影に
馬場喚子鳥

ふらふらとささるる鳥の影に
苗代堂

移りゆく鳥の影にささるる鳥の影に
杜若似藤

秋うつとけり鳥の影にささるる鳥の影に
對顔の傍花

いづれとけり鳥の影にささるる鳥の影に
更衣目録花

うら花の影にささるる鳥の影に
柳葉の影に

時をかりふあつきの影にささるる鳥の影に

浦吏早苗

山陰の浦とふまけいこわむいんあめあし〜

照村厭ぬ

いふ〜まうわ〜ふ〜月心わ〜れきもたあ〜ふ

橋下塩童

童と〜つ〜そ〜も〜わ〜さ〜れ〜の〜あ〜い〜ら〜い〜と〜あ〜れ〜枝〜お

故妻大なる

故妻大なるあり〜ふ〜ま〜ふ〜い〜風〜あ〜い〜ふ〜い〜ふ〜あ〜海〜の〜ま〜い〜葉

氷室忌夜

氷室忌夜の陰と〜あ〜行〜わ〜い〜〜と〜い〜ふ〜も〜あ〜い〜あ

六月之秋

い〜と〜も〜秋〜の〜い〜ら〜ら〜あ〜い〜力〜月〜の〜ほ〜り〜ふ〜あ〜い〜下〜て

七夕秋

い〜れ〜花〜ふ〜ひ〜こ〜星〜れ〜ゆ〜い〜ふ〜あ〜い〜あ〜い〜葉〜墨〜の〜い〜あ〜れ

女郎刺繍帯

い〜ら〜い〜も〜刺〜し〜と〜女〜信〜ま〜さ〜い〜あ〜い〜ら〜い〜ら〜い〜る〜花〜ふ

新道菜穂風

あ〜い〜れ〜月〜よ〜さ〜れ〜れ〜ら〜ら〜ら〜ら〜と〜白〜い〜と〜あ〜い〜ら〜い〜あ〜い〜あ

庭萩雁苑

風〜と〜い〜ふ〜さ〜ら〜れ〜ら〜あ〜れ〜の〜う〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ

麻外翁

あ〜く〜麻〜の〜秋〜の〜風〜あ〜い〜ら〜い〜ら〜い〜ら〜い〜ら〜い〜ら〜い〜ら〜い〜ら〜い

常備様

日影をくまらんと花の影をきき舞ふ志の海をそと
物途航月

あはれこのひびりもあつた月影のまじりて
梅衣に雲繫

つゝ衣打もささくれきじりて
紅葉帯葉

庭の白りお葉たけりて
九月初雪

あつた月影のまじりて
時文先表

とーりれお花とつふとのわが海をそと

思書御表

と物のよみあつた月影のまじりて

蘆園子鳥

あつた月影のまじりて

氷と水鳥

あつた月影のまじりて

網代御表

あつた月影のまじりて

雁島御表

あつた月影のまじりて

極色深敷

理夫乃あさりふふらなる心あはれいふらひのまはたのま

幼息恋

あはれいふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

ゆきは不逢

とらふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

扉上書後恋

うらふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

松有思恋

あはれいふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

片思恨

あはれいふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

暁更松

あはれいふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

若敷裁行

あはれいふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

山頭露

あはれいふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

何處か好む

あはれいふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

心用利捨

あはれいふらひのまはたのまはたのまはたのまはたのま

海路接

是

ふふさびふふさびふふさびふふさびふふさびふふさび

ふふさび

ふふさびふふさびふふさびふふさびふふさびふふさび

田原懐石

おとひくひくおとひくひくおとひくひくおとひくひく

あふさふさ

あふさふさあふさふさあふさふさあふさふさあふさふさ

あふさふさ

あふさふさあふさふさあふさふさあふさふさあふさふさ

海法又中そ和初

天文初元九月盡日 七十九才

無二悪語

ふふさびふふさびふふさびふふさびふふさびふふさび

不更悪語

ふふさびふふさびふふさびふふさびふふさびふふさび

建替合色

ふふさびふふさびふふさびふふさびふふさびふふさび

寄有お配

ふふさびふふさびふふさびふふさびふふさびふふさび

寄命一海

ふふさびふふさびふふさびふふさびふふさびふふさび

天眼海

そらちの生れしらす先んてんてんたうてんてんたうてん

天耳海

たうてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

他心通海

たうてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

神通海

たうてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

不貪討身

たうてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

位正定聚

あふん咲花かう世の二つりてんてんてんてんてん

光明云々

あふん咲花かう世の二つりてんてんてんてんてん

佛光云々

あふん咲花かう世の二つりてんてんてんてんてん

空やう云々

あふん咲花かう世の二つりてんてんてんてんてん

普賢云々

あふん咲花かう世の二つりてんてんてんてんてん

遠離云々

あふん咲花かう世の二つりてんてんてんてんてん

称讚我名

くまもあけしるふきてほろもたうしほりふしん

念佛往生

ゆきねしるふみほりふしんあまほりふしんあま

聖なる運

あまのせよめしんあまのせよめしんあまのせよめ

係念ま生

くましんあまのせよめしんあまのせよめしんあま

具三十二相

あまのせよめしんあまのせよめしんあまのせよめ

心玉練や

あまのせよめしんあまのせよめしんあまのせよめ

伊止るるこ

あまのせよめしんあまのせよめしんあまのせよめ

説一切智

あまのせよめしんあまのせよめしんあまのせよめ

得金剛身

あまのせよめしんあまのせよめしんあまのせよめ

天竺どうしん

あまのせよめしんあまのせよめしんあまのせよめ

義物處傳

あまのせよめしんあまのせよめしんあまのせよめ

物しふ又しん

あまのせよめしんあまのせよめしんあまのせよめ

見道場樹

ふらふら村敷にすすむのこもくわたりとまむれ木の

得辨少智

れりこれほらばうめ枝のうりれさうりもりれまうけ

辨少智窮

今いごくとそはと橋うらそとらうらういあとなつ

徹見十市

ます流うらうらうらうとわか又もふふえありり

香熏十市

二紫うらふり林うらあうら神もくくそ四言れう風

觸光原歌

うらうら光のうらふれつう書もれさあうらうら

ゆら得生

あじあさうらうらうらうらうらあうらあうらうら

女人得生

あいのあひらうらうらうらうらあうらあうらあうら

常後林行

あうらうらうらうらうらうらうらあうらあうらあうら

夫人得教

あうらうらうらうらうらうらうらあうらあうらあうら

衣服得念

あうらうらうらうらうらうらうらあうらあうらあうら

三三集 三三

阿弥施经

うわぐもはふ露りそゆり乃あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

は法文初歌

後古御門院世三四前早八日勤行乃てて綴連て及
一とて沈吟言詞花言葉之可取况文指被を一語之
拜覚降我席云軟信第一義清言意之表懸信
佛照啓所作願也

西卿百首 春日社は樂々

春二十首
初去

うらこ山花もはどろろるはゆたの志だりゆらるるはれりあ

歌

春書

花や河をさへまゝしゝとて編乃心あも人へまゝわたり

柳

まゝてれとのつ友や枝乃ゆさ清てをもてたよとてい

柳

あしやふまの子持や月くくくくくくくくくくくくく

細石

あつたりくくくくくくくくくくくくくくくくくく

花

言五集十三

三

白いころの夕を幾のふらふらゆりたきふはあもあつこ
あいのふふ余と情あはれなればあもさけなれん

去月

まゝもさし宵明の月れまゝの雲をたふす静かなる光
秋を

まゝりくわくは雲あはれなればあもさけなれん
夏十首 卯花

あつこころの花のこころをふさぐはあつこころ
郭公

あつこころのうらみはあつこころのあつこころ
夜月

あつこころの月れはあつこころのあつこころのあつこころ
あつこころ

あつこころのあつこころのあつこころのあつこころ
夕立

あつこころのあつこころのあつこころのあつこころ
秋十首 早秋

あつこころのあつこころのあつこころのあつこころ
七夕のあつこころ

あつこころのあつこころのあつこころのあつこころ
あつこころ

あつこころのあつこころのあつこころのあつこころ
あつこころ

為

秋の多しう人々たわうとくもりもくもりもるに花は

磨

秋よいふふあはれ秋はあはれ秋はあはれ磨のあはれ

月

あつたつた月よふあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

五言

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

お集

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

冬十首
秋

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

落葉

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

冬月

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

雪

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

秋二十首
秋

りりかぬあとしそ思入氣の心蘇るうりふちひかたかよ

忠意

くそつげいけいあもいふるあつてのいりあつていりあつ

不達意

恨くもまひくもあひあつていりあつていりあつていりあつ

あひあつていりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ

物おそ意

いりあつていりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ

は朝意

えりあつていりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ

過おそ意

あひあつていりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ
はあつていりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ

意意

えりあつていりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ

うやそりじれうりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ

雑字首

物あつていりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ

竹

あつていりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ

河

あつていりあつていりあつていりあつていりあつていりあつ

用

若小く清らんをたかしくせふ若くはたかしくせふ

採

若枕一敷二敷とあふ井のふくむはらふくあはれ

山家

あつとすかたれらるあつ洞あつとあつとあつと

田家

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

赤穂

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

若

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

尺取

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

秋津氏物語巻一、和歌

相産

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

若木

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

若木

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

夕影

しらふまの光をうつふとさびしきまよぬ花をみよふ

若菜

あまのつらきとわらひしつらさのせむしをみよふ

未摘花

神はれとてあつしむとあふらつたあまのつらさ

若菜

若菜のつらさのつらさのつらさのつらさのつらさ

花露

若菜のつらさのつらさのつらさのつらさのつらさ

若菜

つらさのつらさのつらさのつらさのつらさ

若菜

つらさのつらさのつらさのつらさのつらさ

若菜

つらさのつらさのつらさのつらさのつらさ

若菜

つらさのつらさのつらさのつらさのつらさ

若菜

つらさのつらさのつらさのつらさのつらさ

若菜

つらさのつらさのつらさのつらさのつらさ

孝道生

かゝる此をたゞのしるしにせむは

実在

今も昔も同じく世にありて

縁合

海にわたりてゆく舟に

松風

ひびくは心のこゝろに

海潮

おろしき世に海もたゞ

横

あそびながらこそたがひ

し女

あひだに心をこめて

玉露

おろしき世に海もたゞ

ゆき

あそびながらこそたがひ

胡蝶

あそびながらこそたがひ

雲

あそびながらこそたがひ

瞿麦

かきこり花は咲つる多はさくかたきさの河平に雲くらん

篝火

空はうらやま月をこまくねふまを焼くさなほりり火

野うぐいす

菊ももをうらやま月をこまくねふまを焼くさなほりり火

ゆず

あつさき野人の花をこまくねふまを焼くさなほりり火

萩

さくさくやほりり花をこまくねふまを焼くさなほりり火

栴檀

さくさくやほりり花をこまくねふまを焼くさなほりり火

栴檀

さくさくやほりり花をこまくねふまを焼くさなほりり火

萩

さくさくやほりり花をこまくねふまを焼くさなほりり火

萩

さくさくやほりり花をこまくねふまを焼くさなほりり火

萩

さくさくやほりり花をこまくねふまを焼くさなほりり火

萩

さくさくやほりり花をこまくねふまを焼くさなほりり火

授節

つらつらみ来りてうらた節竹お夢くは風乃つらつらとりきん
珍忠

給也乃くまよつ事とともすうみ渡つりすくうらたひの流志也
又少力

るてあつ程なきれと夕きりれとあふのこれんさるぬ
浄法

ゆとつうた祿うひの程乃くそくふれは流そせあふひの
幻

ゆくはあふふくはぬあふ計とて海越つうとてさかつらと
中流

いはくあつせうくはきん西番あふの老ひ月乃あふとらうく
白無部心宗

うくもて花乃白ひやうく昔のうらたふさふ枝あつと舞
お梅

お乃あふとらうはあふひとこの世れりた舞乃のむく
竹川

うくあふとらう柳と竹海れ志ぬあつとあふとらうきん
橋姫

橋姫乃あふとらう綱あつとさくはとらうとあひさつとん
推本

とらきひとあふとらうぬ推本乃あひのさむ飛とらうきん

上十五
角銘

しあへさうもあひしあふまはのほろほろのほろほろのほろほろ

早願

あふまはのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ

東名

あふまはのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ

浮舟

あふまはのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ

轉鈴

あふまはのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ

多智

あふまはのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ

夏坊橋

あふまはのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ

右一巻天文九年十一月廿七日小江列石守親

音奉納

世尊院

あふまはのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ

あ

あふまはのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ

又奉納 世尊院

白ひくま今もくらしひかんも嘆らる世のまふとてまてらん
 ぬ沸かおありしうち耐いおひつとまき事こそ
 雲霧のうらの田製れ世こそまののうらみとらん
 くの死つとまきとるひつ

もうや昔もあつた死とてあつたあまら神のうらみ
 らの世れまはらわらう人々うらとてあつたあまらの花
 ふれ申のらもはそあうられかあれのとらまらあひあ
 こひうら昔もあつた死とてあつたあまら神のうらみ
 ぬれいりまふふあつた朝霧もたけまうそあつたあまら
 だうあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 たまきけとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

神人の霧越くとおまむつとあまらうられ死のあまらうら
 らうらありそあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 うらうらあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ひうらあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 はのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 そひとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 後の世をたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 風のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ああつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 わりうらあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

雲玉集十三

廿七

へそとていへりもわらふに人かふとてくまけりしむらさき
累卵乃そあひあひ九一ふうをうらまふもあうてあは
とくちとちよふ人かむるひぬれぬあうはあひあわ
と海をぬれそあふと若くはひんもらぬあそふ高き
まうしうしうもはなれし海にふいふはそとくありて
かりのきとゆくかきぬるはまをまはし有一尺の細紙
うもて鏡とてを扱のありれとあうかきむしう画科
はあおひるにありまうまて志うむのありてを扱そとひん
とじやふふにころやうつはうの月紙ゆてふれとさん
おぬくれ入はもちうしう人かむふうこのあはのま風
りてせのほもよぬとて若のまうしうとてはたし

のくへうとんとそふこのちれ世ふつとんはのよひ
あふやあぬとあふてくはそるはぬれ一室とあふん
右廿一首者永正十三年九月廿八日依
坂本御門院第十七回聖皇於般舟三昧院内
は奉自廿一日被扱ひしる時被扱ひ死
す御編々

通村

あひよの志すれぬとあひぬるまひうはあふあうしうと
かき御願ふ人申つらうゆくと道達院の中

道永

中よりきたるわきわきとてはなれどもなほさびかりての
 百とせぬよるごとくわ人の世は天はうらむらうたれを
 ひとくひはうらむもさしうらむ老のたふさうあき物に
 おらむとふれちこれ面々お立てこめてこゝろをさうめん
 暮れよとてうらむれこりれよこひとてこれさうちひあつて
 ちとすこいさひけさよはあめ下おささこもさん神とてわ
 らしきつる物といふおささこはうらむらふ今かきさ
 さいさうわきわきとてはなれどもなほさびかりての
 わらむのあきさつとてはなれどもなほさびかりての
 幸なるてい入りのわらむらふはうらむらふさうらとてさ
 らん人もさしうらむもさしうらむもさしうらむもさし

どうちとてはなれどもなほさびかりての
 あれらの梅よりうらむもさしうらむの世のあきさつとて
 今よりとてはなれどもなほさびかりての
 きく事いふわきわきとてはなれどもなほさびかりての
 さいとてはなれどもなほさびかりての
 さいとてはなれどもなほさびかりての
 うらむらふとてはなれどもなほさびかりての
 あくのみいふとてはなれどもなほさびかりての
 さうらむとてはなれどもなほさびかりての
 わらむとてはなれどもなほさびかりての
 さいとてはなれどもなほさびかりての
 さいとてはなれどもなほさびかりての

さりとて水の月夜半の露の音もまた
てはひさきあはれはひさかたはあまの
あじのさきにはははあけふもあまの
くまのまがうもあまのまがはあまの
あまのまがはあまのまがはあまの
あまのまがはあまのまがはあまの
あまのまがはあまのまがはあまの
あまのまがはあまのまがはあまの
あまのまがはあまのまがはあまの
あまのまがはあまのまがはあまの

右の挽亦一首と舟一字を初句と首平綴半句
世嘉勳の園抄云々
右一首道徳院自年と事と
一説は次を接合年

大正六年十月廿九日

兼門道遠子^{七十}

伊豆事 印刷

不さうよ	りつりり	秋のうたもあふ	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた
あまのうた	あまのうた	あまのうた	あまのうた

うづもつゝあらんすれと後のあふらんこと
道水

三十首

龍露

うづもつゝあらんすれと後のあふらんこと

曉更鳥

うづもつゝあらんすれと後のあふらんこと

楊柳

うづもつゝあらんすれと後のあふらんこと

花西人

かり衣ふとい花のうれなむあはれいこあむらうき海

春曙

非るあむらうこの世は花よりむむいひりれえはあむらの

巖頭翁

かしのあむらうけのいふのせむいふあむらうあむらうあむらう

用器

あむらうあむらうあむらうあむらうあむらうあむらうあむらう

大りぬ

佐保のうらたけあむらうあむらうあむらうあむらうあむらう

夏草

のうらたけあむらうあむらうあむらうあむらうあむらうあむらう

栲河舞

あふりくればはなはなとさうのあふりくればはなはなと

迎秋

うさねのうさねのうさねのうさねのうさねのうさねのうさね

行路秋

うさねのうさねのうさねのうさねのうさねのうさねのうさね

秋風

あふりくればはなはなとさうのあふりくればはなはなと

野水舞

あふりくればはなはなとさうのあふりくればはなはなと

對月

あふりくればはなはなとさうのあふりくればはなはなと

若知舞

あふりくればはなはなとさうのあふりくればはなはなと

胡若

あふりくればはなはなとさうのあふりくればはなはなと

浦千鳥

あふりくればはなはなとさうのあふりくればはなはなと

東若

あふりくればはなはなとさうのあふりくればはなはなと

白煙火

あふりくればはなはなとさうのあふりくればはなはなと

恋書

風吹くらぬ色のぬ中えのまゝと人の好くあつた
通書恋

花もあつたさういふさういふさういふさういふ
恋栞

それだけいふさういふさういふさういふ
めくろ恋

いふさういふさういふさういふさういふ
恋栞

いふさういふさういふさういふさういふ
恋栞

ゆき雪のじりり色のぬ補綴ありまはさういふ
閑寂

いふさういふさういふさういふさういふ
夕遊曲

いふさういふさういふさういふさういふ
接友

いふさういふさういふさういふさういふ
恋説

いふさういふさういふさういふさういふ
恋書

右三首は自筆海草

美徳の平 一校

詠三十首和歌 大永田仲光聖廟奉納七十五

早雲庵

と物心もなげこ花はれとつこし神を慕いふた

澤春草

目彩すあこいあのかみはじこい色にあらまはたかく

曉梅

淡とさなるつこき香も梅の花縁えの神は物あなけつ

花は山

山にのこもあつたつこいふまよふくしんあはたか

江と書ま

のこあつこいあはらつこいあつこいあつこいあつこい

候卯花

岩の戸はとつこいあつこいあつこいあつこいあつこい

野郭云

しつ地はとつこいあつこいあつこいあつこいあつこい

西は橋川

西はれとつこいあつこいあつこいあつこいあつこい

月余の萩

とせもつこいあつこいあつこいあつこいあつこい

夕出

秋の身は夕もあつこいあつこいあつこいあつこい

海名は麻

けあよりふくらみしねむらひの影のさかひに

しひらくこ色なやうにきらきらとあつたはつた

名所抄衣

えさきくぬいしむくはえけりもねのてらに風をゆく

朔寒甚

ゆれとぬ入はのあへてをかく物なすさるるはつた

深衣千鳥

くそひの孫えしゆにさかの月らうらまへあきかなん

おのゝ

まじりのふれやわらうらうらうはるむかひゆつた

ゆき

あつたふらむかきさくさくあつた

ゆき

あつたふらむかきさくさくあつた

ゆき

あつたふらむかきさくさくあつた

ゆき

あつたふらむかきさくさくあつた

ゆき

あつたふらむかきさくさくあつた

ゆき

まじし秋分萩うつらうつらと極つるもさかすかあまけりし落ふ

萩有

月色こそやわらわしやとれ草庭あふふとれ地ゆもさかす

萩有

あ風分うれひうらふ文のゆりも此國をもたれあはれ

山家松

はく山家もさかすあまけりあふとれけりけり此友ありけり

山家梅

こころやけらうらふあふ打もさかすけりけりたふの若も

山家萩

あまのたの花とお葉もさかすあふとれけりけりあふとれけり

山家萩

こころあふとれけりけりけりけりけりけりけりけりけり

山家萩

あまのたの花とお葉もさかすあふとれけりけりけり

山家萩

あまのたの花とお葉もさかすあふとれけりけりけり

山家萩

山家萩

あまのたの花とお葉もさかすあふとれけりけりけり

山家萩

去るしむるふもまはら白もふもまはらと花とまはらと

物もまはらとまはらとまはらとまはらとまはらとまはらと

霧中龍

予先六ただ布ゆすすもまはらとまはらとまはらと

曉帰宿

あはれまはらとまはらとまはらとまはらとまはらと

初花

まはらとまはらとまはらとまはらとまはらと

花や

初年のうけふ花のまはらとまはらとまはらと

野葛浦

あはれまはらとまはらとまはらとまはらとまはらと

網海

閑あはれまはらとまはらとまはらとまはらと

夕雲

あはれまはらとまはらとまはらとまはらとまはらと

七ヶノ

あはれまはらとまはらとまはらとまはらとまはらと

河と霧

あはれまはらとまはらとまはらとまはらとまはらと

月夜露

世のふとむらさきも 毒れ純のあはれぬのあふりたる

野渡月

そらとてあふりたるあつきの月も清くもあつる月も

積麻

積まるとしてあつるあつるあつるあつるあつるあつる

水鳥(兼)

水も世もあつるとしてあつるあつるあつるあつるあつる

芳林虫

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

湖名

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

板名

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

湖名(兼)

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

初巻

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

不巻

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

黙巻

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

稀巻

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

もろあやうくは海さか人よりとむのひもたさとしつゝあまき
見増恋

ひてうはるをゆふあはるのさかえをまねたうか
川恋

ふふをそふあふふ世のしとらう人よあはるの秋ひつら
縁久恋

いほのうはのあはるをまねるあはるの秋ひつら
落書伝

そとあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
辛帝

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

海難中

ゆふあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

右はは集

大永六年八月十九日奉納

十の秋泳千の秋泳一五日秋回の秋泳吟真

此本は月集海集一校

漢語吟集四云

花世首初秋 永正三年三月廿六日三人也勅額

見花

後柏木院 御製

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

祝花

寶隆

花やあふさうりのしとれもなまぬきふじうらと

わ花

改め

又いじもふもわたの陰あふくおろくもねんまの文は

嶺と花

御製

なそとく花よりせねなぬのきふふくもあつりうら

野徑花

実隆

もろもやまのむりもあつりうら花もあつりうら

何花

改書

あうりもねんまやまもあつりうら花もあつりうら

解花

沖製

ゆりり花よあふさうりもあつりうら花もあつりうら

磯花

実隆

へんのりもこれとわつりうら花のあつりうら

花の重

改め

花よもあつりうらもこれとわつりうら花のあつりうら

花の重

沖製

あつりうらもこれとわつりうら花のあつりうら

月花

実隆

あつりうらもこれとわつりうら花のあつりうら

風花

改め

あつりうらもこれとわつりうら花のあつりうら

あつりうら

沖製

まよふ花小法師の面そくさ自由の色多き神志がけ

花中花

実陸

まよふ花のまよひを志す深きとく花と花のまよひのまよひ

講家花

改め

我本三れめ花とまよひ措く那たあ地のなまよひ

閑中花

川裂

非とまよひを志す花とまよひん花小法師の深きまよひ

草花

実陸

つらつらまよひの深きまよひとまよひんまよひの花と花の

花中人

改め

まよひまよひのまよひとまよひんまよひのまよひのまよひ

情花

川裂

あつちまよひの深きまよひとまよひんまよひの花と花の

落花

実陸

りまよひのまよひとまよひんまよひのまよひのまよひ

空花

改め

咲く花のまよひとまよひんまよひのまよひのまよひ

空花

川裂

花とまよひのまよひとまよひんまよひのまよひのまよひ

空花

実陸

花の神とまよひのまよひとまよひんまよひのまよひのまよひ

空花

改め

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

寄花恨恋

沖波

人さうにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

寄花恨恋

宝屋

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

寄花恨恋

改め

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

寄花恨恋

沖波

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

寄花恨恋

宝屋

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

寄花恨恋

改め

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

平首和歌

道雲 資直 ありては 故日 前田村 和歌

早春号

資直

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

前田村

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

桐島

道雲

あまのついでにわたりてあまのついでにわたりてあまのついでにわたりて

前内封

日のわらわらりそりおぬのうらとくも白あさうんこふ

夕梅

資直

うらら我神さぬじうふ夕の月へんぬたさむ

前内封

夕まこれ侍人さぬうららふ神とゆらうくじゆれん風

庭妻あ

道深

暮らふあゆの柳つらうらとてあふれんこといふあえん

前内封

暮あふうとわさくも庭あふてあふあゆのうらあ

見た

資直

はらやんたのうららとくもあせをたふふあふああありら

前内封

さくもあふらうららうららあはじう今もをたさむら

中郭と

道深

と細きくもさくもあふのうららうららあはじう今もをたさむら

前内封

郭と細きくもさくもあふのうららうららあはじう今もをたさむら

五月あ久

資直

うらとさくもあふあはじう今もをたさむら

前内封

うらとさくもあふあはじう今もをたさむら

水色三景

道雲

さうりあふあーはかたれあさあふあさつらふひれあん

赤内射

あふあふーはさささささささささささささささささ

遠くをき

資直

あさつらあさつらあさつらあさつらあさつらあさつら

赤内射

あさつらあさつらあさつらあさつらあさつらあさつら

樹陰細涼

道雲

あさつらあさつらあさつらあさつらあさつらあさつら

赤内射

あさつらあさつらあさつらあさつらあさつらあさつら

草花露

資直

あさつらあさつらあさつらあさつらあさつらあさつら

赤内射

あさつらあさつらあさつらあさつらあさつらあさつら

芳中宿

道雲

あさつらあさつらあさつらあさつらあさつらあさつら

赤内射

あさつらあさつらあさつらあさつらあさつらあさつら

野原

資直

あさつらあさつらあさつらあさつらあさつらあさつら

前肉射

さうしは秋はとてあはれはくもわいつくおとくもせしめし

深夜月

道中

秋心つくは月ふるしきても少きりそこの庭は雪風

前肉射

静かにも動もあつらん秋の月ぬれおちくは風のそよ

ふお葉

道中

うらみも月あつれた夕もふりふりおちくは風のそよ

前肉射

花はつとあ葉よそくよまおちくは時あくはぬもはたき

物あし時あ

道中

あまそはげさそ時あの時かよまのくちうねはゆじん

前肉射

我袖はくもくれ結とくちくれうらうら物あまもあかん

河秋

道中

さひ川あのみまきあうささあはくはよ結ふらひ水あゆ

前肉射

くはゆあもあふとさつ川あはゆはひさしふあは

連日雪

道中

あこよはあつるさつる雪はつらさうさうさうさうさ

前肉射

あこよはあつるさつる雪はつらさうさうさうさうさ

浦の鳥

資直

うらうらたすはつあはぬかへても鳴うらうら

前肉村

鳴きけとくさうらうらあはぬかへても鳴うらうら

後神樂

道徳

風しきお春の妻さうあまおまねひうらうら

前肉村

くさひの妻さうあまおまねひうらうら

忠志

資直

あはれさうあまおまねひうらうら

前肉村

あはれさうあまおまねひうらうら

不慮志

道徳

あはれさうあまおまねひうらうら

前肉村

あはれさうあまおまねひうらうら

侍志

資直

あはれさうあまおまねひうらうら

前肉村

あはれさうあまおまねひうらうら

道徳

道徳

あはれさうあまおまねひうらうら

花月村

思ふくもみづらひのうらみ

恨恋

質直

いとこもみづらひのうらみ

花月村

しるもみづらひのうらみ

曉雲

道雲

ふもをれ曉あけつらみ

花月村

世を流く月影さうらみ

夜着

質直

紗衣をぬきみづらひのうらみ

花月村

うらみくもみづらひのうらみ

霧中燈

道雲

ふりまをるもみづらひのうらみ

花月村

うらみくもみづらひのうらみ

山家嵐

質直

あつらひもみづらひのうらみ

花月村

思ふもみづらひのうらみ

社頭祝

道密

まのやま社頭のはつと清き水はあつたけりて雲のまをけりてん
 お肉射
 あまのつとけりてんふもくはつとけりてん

雪玉集卷第十四

蘇之平首和歌

早春水

細江渡健 基徳

あまのつとけりてんふもくはつとけりてん
 子日

清くくはつとけりてんふもくはつとけりてん

梅薫袖

いそ袖よ入るるはつとけりてんふもくはつとけりてん

鎌倉月

くら月えうへはつとけりてんふもくはつとけりてん

感花

ちりしふしと紙をねんぬるもさうふたねんさうりぬく
花路風

をわらね花をりりこころをけりぬまもふもなれそら
善書鳥

ふるくむふらふいふわいふふのまふまをぬく
郭公

我やふさけいさけいけいけいけいけいけいけいけいけ
お月夜

おひひと袖ふさけいけいけいけいけいけいけいけいけ
納線

老おまはふさけいけいけいけいけいけいけいけいけいけ
い

セタ

衣たわふさけいけいけいけいけいけいけいけいけいけ
高以社

くふ高以社の水ふさけいけいけいけいけいけいけいけいけ
深夜虫

鳴ひの音のむのとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
田舎鳥

おひさる氣のあふさけいけいけいけいけいけいけいけいけ
お家月

おめくさけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけ
情月

夕月乃影小なりて空とてうらみおぼしうて影をまじふ

お糸

あまのつばきの葉もはらふとわらへば浦のうらみもそそぐ

年々

神皇のうらみのこゝろにえはれりきねははらふとて

水鳥

わしつ鴨の川をこゝろにゆかすにけりなまをそそぐ

庭書保

あまのけいふれやう新のつとめとてあまをそそぐ

思恋

しづかよつくりもあつたつたおれりきとてあまをそそぐ

愛中恋

いめさうんらんりもことごとくあまをそそぐ

折恋

うらみやうのつとめとてあまをそそぐ

秋恋

うらみとてあまをそそぐ

恨恋

くやしやうのつとめとてあまをそそぐ

曉鶉

うらみとてあまをそそぐ

采中燈

らひの清きしとらとくきと我世のまことよのまら

霧指

ぬくま妙ふんころみくかきぬひおれぬるけいさ

本懐

のらとよつへんるまゆつらとまそぬらふもぬれわたん

祝言

我長あらしとせとあぬくあともあともうらやまうこ

報贈細江渡船三十首和歌

早春冰

山城外都知音 實隆一

年波や水よりくわ流る川の水あうううううううう

子日

ひこまれもあの子のひとをたれとたのしくれねとあ

梅葉袖

袖うね人ほたけひくくあさ秋かにと流る梅

餘筆

初う小妻の姿をれ月やけよささふ袖をれ書れ心

感花

けはぬれらうとくふぬるうとくうふと抱と花うら

花語風

花とてよのまきふあをううううううううううう

若妻の書

ふゆと秋のうらみはわたりゆくは秋のうらみはわたりゆく

あきと春のうらみはわたりゆくは春のうらみはわたりゆく

あきと春のうらみはわたりゆくは春のうらみはわたりゆく

あきと春のうらみはわたりゆくは春のうらみはわたりゆく

あきと春のうらみはわたりゆくは春のうらみはわたりゆく

海神

あきと春のうらみはわたりゆくは春のうらみはわたりゆく

あきと春のうらみはわたりゆくは春のうらみはわたりゆく

あきと春のうらみはわたりゆくは春のうらみはわたりゆく

あきと春のうらみはわたりゆくは春のうらみはわたりゆく

あきと春のうらみはわたりゆくは春のうらみはわたりゆく

あふさえん天は日朝のくわらたき清くあふさえん
後云

二十首

春晓月

桂の戸の雪のえれありぬふ露の清くしてしる月明
揚見花

花とまえたわさうはさうり月星つききふ海りこ
風お花

あらしの風のふよ戸をよそとてふまわ花はらうもらうは

懐秋云

あふさえん天は日朝のくわらたき清くあふさえん
秋をさる

風おのこふさうりあうりあふさえん月明つききふ海りこ
雨は秋云

秋をさるはらうり乃さやうりあふさえんてふまわあうん
樹は避暑

あふさえん天は日朝のくわらたき清くあふさえん
秋風若林

あふさえん天は日朝のくわらたき清くあふさえん
山月

世にゆくはくも海ははる海はとていへば月夜をいへん

月夜雲

月小ぢく雲ははるるをわらわらとわらわらとわらわら

秋葉

霧よ霧よ神あつらふ秋の葉風よわらわらとわらわら

梅雪月

うらやうらとほろとほろと白鳥のうらやうらとほろとほろと

冬曉月

ねごわれいとおつらつらと曉れは月と神よと月夜

落葉

ひろひろと秋の落葉とつらとつらとつらとつらとつらと

高月夜

雲のまじりて月あつらふ月夜をいへん月夜をいへん

高月夜

日くしつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと

高月夜

あどちあつらわらわらとつらとつらとつらとつらと

高月夜

あつらふのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

海夜

浪月あつらわらわらとつらとつらとつらとつらと

釋迦

浪月あつらわらわらとつらとつらとつらとつらと

夏がやうあはれ旅してぬ岸かた心あつとも老後おのゝちいふとこそ

詠二十の和弁

世中よのうたよまこと年とし月つきのうたよまこと昔むかしのうたよ
長きほどたふじひつらむ事の母ははよひつらむ事を花はな
されつらむるも昔むかしのうたよまことてかた旅たびのけり
なれつらむるも昔むかしのうたよまことつらむ事を花はな
しらぬ義ぎのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まこと事をとてつらむるも昔むかしのうたよまことつらむる
事ことよまことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむる
事ことよまことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむる
事ことよまことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむる

つらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ
まことつらむるも昔むかしのうたよまことつらむるも昔むかしのうたよ

うらたれえのうらとせひうゝおるれもそのれむのそ

任若は樂三百六十年之元 彼相後七文の海多し

早春浦

浦風ふまゝゆゆれりわさしと暮らふ心さ物なほうさ
海風よりと物なほと暮らふ心さ物なほうさ

踏車音

り夜とくねとくねと風よみらまきまきとひひりりか
るのこれまきまきとくねとくねと風よみらまきまきとひひりりか

開花

山風の音鳴る存るき好のそに人々あはれたれとまき

わふ坊やとまきわふふと世にうらとわふふと坊ふふの井りあ

夕霧を

風はまわといふわらうらと夕霧のそに人々あはれたれとまき
ゆくとまきといふわらうらと夕霧のそに人々あはれたれとまき

書きまわら

年々小鳥のうらととせむをを詠るにやうとくくくくく
くふんといふふととせむをを詠るにやうとくくくくく

夏夜

秋とすの星のやうらととせむをを詠るにやうとくくくくく
夕霧の音鳴る存るき好のそに人々あはれたれとまき

樹陰納涼

あつらうり茶ハのびふれきくひらけらるる流のさ
夕とくこの本のはれをたきその心はくはれおまきふか
女而花靡風

あひまといひまきとやふとふかへーたはるる舞の風のこころよ
わこありゆるふたはりの女命花風とて風よまひなほし
海名三麻

わらり海あり浦風ふとせよほそあく麻のたひはるるん
沱月

あつらうり茶ハのびふれきくひらけらるる流のさ
夕とくこの本のはれをたきその心はくはれおまきふか
女而花靡風
ねるお祭

あはれの風の小ふ吹そりしうらひけれしんきあてよ
下りらありふくふあきくろん流ぬうらひたふもくそて

ら書

かまうり茶ハのびふれきくひらけらるる流のさ
夕とくこの本のはれをたきその心はくはれおまきふか
女而花靡風

夜歳書

あつらうり茶ハのびふれきくひらけらるる流のさ
夕とくこの本のはれをたきその心はくはれおまきふか
女而花靡風

新開書

あつらうり茶ハのびふれきくひらけらるる流のさ
夕とくこの本のはれをたきその心はくはれおまきふか
女而花靡風

身千鳥恋

あはれあつ神の水と母の心とまじりあはれ月ふりりあはれ
わかれ牛一徳もさうふれまわくまたう縁さう入てあはれ

身鳥恋

かとうやく秋の森の園のうらにはあはれまのこもあはれ
あつ月のうらされあふさうてと森のうせ乃極く来とさふ

嶺椿

花のまられたの秋のら^かれ枝八つやあはれあはれ
うらうらうのうら^かはれとさあはれあはれあはれあはれ

田家秋

かよつうらま^か田のあまて唱舞やうら^かる森の花とさう

あはれうら^かふあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

布面

あはれあつ^か光と秋のあはれ^かうら^かうら^かうら^かうら^かうら^か

身那祝

秋のうら^かうら^か秋とさう^かうら^かうら^かうら^かうら^かうら^か

永正十二年閏二月廿八日於石山成就院御作^か日新内村

被^か同^か

いと霞

と條

朝やまのうら^かうら^かうら^かうら^かうら^かうら^かうら^か

実澄

夕たぐり入いのひらけ柳けりうらもさびしむのりう柳

野鳥

多海

雪半さうらとさうれおの戸とわくうれいつる雪入るひと

実陸

鶯ハ初春のくせもさうれ多よ春のくせと忘れわく

山残雪

云條

あつ雪のさうわわくさうらさうらさうらさうらさうら

実陸

雪水ひくのさ根はさうらとさうらさうらさうらさうら

柳葉袖

多海

神のくよにさおさうらぬ白ひふさうらさうらさうらさうら

実陸

いささぬ白ひよらふさうらさうらさうらさうらさうら

春曉月

云條

うらねのさうらさうらにさうられよのさささうらさうらさうら

実陸

雪の戸とさうらゆさうらさうらの月うらなとさうらさうら

遠る初花

多海

いさささうらさうらさうらさうらさうらさうらさうら

実陸

雪とさうらさうらさうらさうらさうらさうらさうら

花盛解

云條

らうふんはううのまきゆきまふよりあふんふきりうゆ
実隆

花よふふのまきゆきまふよりあふんふきりうゆ

花隠風

実隆

さひねをさくひあふゆはうの風よふのいうなりわううま
実隆

実隆

一まひのゆきまふよりあふんふきりうゆ

思雜

公條

ゆきまふよりあふんふきりうゆ

実隆

ゆきまふよりあふんふきりうゆ

若志友

実隆

うまきゆきのまふよりあふんふきりうゆ

実隆

ふかおれんまふよりあふんふきりうゆ

不孝恋

公條

あつらひゆきまふよりあふんふきりうゆ

実隆

あつらひゆきまふよりあふんふきりうゆ

祈恋

実隆

あつらひゆきまふよりあふんふきりうゆ

実隆

うづりあけと縁よくらぬに我の心きしより此志先繩

契侍恋

云條

かゝる道整る夕のあはれと心きしよりのけいふあきし

実澄

りさねいとさきりしはこりもさかぬえとゆかりもか

逢僧恋

云條

あけもつりねきくまのこころにああわひのゆき

実澄

あはらあはれあそと縁よくらぬに我の心きしより此志先繩

傍列恋

云條

いふせんかたさこあかしくもいひゆるさるも志あ列縁

あはらあはれあそと縁よくらぬに我の心きしより此志先繩

実澄

乞名恋

云條

あはらあはれあそと縁よくらぬに我の心きしより此志先繩

実澄

えあはらあはれあそと縁よくらぬに我の心きしより此志先繩

恨恋

云條

あはらあはれあそと縁よくらぬに我の心きしより此志先繩

実澄

あはらあはれあそと縁よくらぬに我の心きしより此志先繩

用結總

云條

明くろ花のまよふ世記の戸かまらねうつれとるのよふ

空澄

戸内世の世よお坂よまゝもけふねふふとあつてん

浦雲

云條

あつてんわねい一本のまよふと子屋のあつて縁あそび

空澄

あつてんのねわあひといひわあふとあつてんあつてんけ

寄道祝

空澄

あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

空澄

あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

代世賀喜

御香殿

宵柏

あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

竹裏寫

空澄

あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

梅屋神

宵柏

あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

水名と柳

空澄

あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

帰一石

宵柏

あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

去ぬ

実陸

花よりのおもむも常此なる花をよもむしおぬぬかたの宿

裁花

宵柏

うづうつる宿の葉も丸くくを井のよふれ種ありと

お花

実陸

おのよふおのこれ枝はかろくもかろくもかろくもか

去曙

宵柏

まのこれおあむもくまのよひおあむもくまのよひ

おと藤

実陸

うじく風りもくもくもくもくもくもくもくもくもく

忠恋

宵柏

あつたの思のよはいふとくまのよとくまのよとくまのよ

不遠恋

実陸

しほふれもくもくもくもくもくもくもくもくもく

契恋

宵柏

まのよふもくもくもくもくもくもくもくもくもく

は朝恋

実陸

月をれらゆそそあつたのよろくもくもくもくもくもく

恨恋

宵柏

あつた又り糸ののれも物もくもくもくもくもくもくも

曉恋

実陸

つづつ月もくもくもくもくもくもくもくもくもくも

山家

宵柏

きりぎりすのこゝろにせむしきよきよの葉よとくはなれぬ

掃り友

亥港

ふわりてしほふんこころりなほあめいそめいりか

本嶽

宵柏

世のこころいふふらふはなれ若やんこころるのりき

津紙

亥港

ふめてとまおれ物しりふんこねれとくしあはれとの葉

明應八年二月廿二日

右傳和歌の形長者是潘岳夏候徳之合齋時

く珠全首頭とす玉丸とすとく修覧初編と傳

感興命の世業の西の地まきうはるまき

十首

吉日

あめいらりふたのしりあはれあはれあはれあはれあはれ

吉日

ふんのしらもろくはくしりあはれあはれあはれあはれ

吉日

しらのあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

吉日

あめいらりてふひもろくはくしりあはれあはれあはれ

去海

去の目れあまのこらひりつたといひてはうらみかみかみ

去舟

去のうれ波のよらぬのよ清くあつてそとふれぬひとが

去草

けいこらたのらもつてあまみりあつてあつてあつて

去歌

麻酔しててもとをわすれぬかたこれかたのきんたあひ

去虫

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

去鐘

はのこめあふち寺のう縁のあを部りあつてあつてあつて

去竹

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

去花

うら枕こよひりてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

去衣

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

去髪

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

去鏡

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

十一首

枯風

風の葉のうらみとゆたのたよりひびくも風を吹くをわら

枯露

露のうらみのまはらふわたの風よももくもあはれあつ

枯月

月くひのあひくくへんまのよおのちあつあつのかのよ

枯雪

雪のうらみのしほくもあつあつとて身はたのこもあつ

枯花

花のうらみはらふにわたのまをなつたよりあつあつ

枯鳥

鳥のうらみはらふにわたのまをなつたよりあつあつ

枯虫

虫のうらみはらふにわたのまをなつたよりあつあつ

枯麻

麻のうらみはらふにわたのまをなつたよりあつあつ

枯水

水のうらみはらふにわたのまをなつたよりあつあつ

枯草

草のうらみはらふにわたのまをなつたよりあつあつ

枯鏡

鏡のうらみはらふにわたのまをなつたよりあつあつ

あふははらふもさうさうさうの月ははらふさのりまあ

秋後

あつたのまをさうさうさうさうのあつたのまをさうさうさう

秋意

えそあつたのまをさうさうさうさうのあつたのまをさうさうさう

秋懐

あつたのまをさうさうさうさうのあつたのまをさうさうさう

秋鶴

あつたのまをさうさうさうさうのあつたのまをさうさうさう

詠十首和秋

感花

あつたのまをさうさうさうさうのあつたのまをさうさうさう

競花

あつたのまをさうさうさうさうのあつたのまをさうさうさう

観花

あつたのまをさうさうさうさうのあつたのまをさうさうさう

夜花

あつたのまをさうさうさうさうのあつたのまをさうさうさう

思花

あつたのまをさうさうさうさうのあつたのまをさうさうさう

松花

心あもる世々のまよふ川のそらを海にうつる花も咲かぬ

遊花

あけと夕記入か庭の遊草に人のころ花をさるん

竹花

あつはともさうふ白海まはれ世のあふさうはる花の下を

烟花

さうはのまぬをくくさうまといひか花はよあさう

浦花

まよれははるの絲さう吹風よ花はたえされあはう

花雪

まよれははるの絲さう吹風よ花はたえされあはう

花原

花さうあう心のほくさうまされ花心のあはう

花端

風さうあふさうんはるはあふ端さうまよれ花を

花主

ゆきさうれはるはあふさうまされ花のあはう

惜花

けしきさう何の海にさうまらんあひさうさう花さう

法撰吟集三三

あまうへさう茶肉大信 實隆云九月十三日

く物さうはるはあふさうまされ花を

聖王集十四

十一

少あく小物ねとるる月ふしととるりあると老よあつ宛
 ぞろくもたれあり花とてくわふもはなるともうたはれし町
 町のくもはなよふ思くはるる花あもくしつらうとあつ華
 わきだるふもくくもあはれはてな世と花のまわの橋あ
 まさひはよこしひもまてん月夜もまてんはなれく宛の元
 町まう町のすゑのけり花のまは月あまもるる影えうあま
 見ものうらよはなれはあつらととととわたりまわらう花のあ
 うはうらまう風の花の葉う花うりあはれまもてんてんてん

水尾推士

いひまゝ箱くくまゝくまゝり

町の夜をばくくくくまの香れあつむは月ふあひわりはく
 橋のくは花はくあつ華あも月夜とらりあまうとまてん
 あくのまひくふ深くもと西首の秋と我らのまてんあつらと
 のやあつくまもまてんらふらうわつらあつらあつらあつら
 年いんわやもまてんあ花の月夜あまもてんあなうらまてんあ
 まてんくも花もまてんあ花のまてんてんあ花のまてんあ
 町のくも花もまてんあ花のまてんあ花のまてんあ花のまてんあ
 わきだるふもくくもあはれはてな世と花のまわの橋あ
 まさひはよこしひもまてん月夜もまてんはなれく宛の元
 町まう町のすゑのけり花のまは月あまもるる影えうあま
 見ものうらよはなれはあつらととととわたりまわらう花のあ
 うはうらまう風の花の葉う花うりあはれまもてんてんてん

世ふらへむいそ月の十日あまりたふととけけるあはれあふ
ころ事紙中へて清製と産まはまにならむ
あつ月の名は神ををまらりし時毎一神をせよあひまを
ひくまのまは神よりせよと風まはる月をいひん
つてもあまたりけき花さういもまはれたのまのほま
わよとじ若の藤のまのまをらうと時あつまをいひん
は師の藤あそまらつ花のまらわらうとてを神けをいひ
時一まのまをいひの秋の月若よとらむ教あはれて
よのえの若一山あはれたのまをいひてあはれまをいひ
あはれまをいひてあはれまのまをいひてあはれまをいひ
あう世のまをいひてあはれまのまをいひてあはれまをいひ

ゆめくゆめあはれ月とまらうんらうんこれ神のまをいひ
諫書よ月の光とけけるいれわは着のうやとれ中
らゆめよとらむまをいひてあはれまのまをいひてあはれま
よつ神のまをいひてあはれまのまをいひてあはれま
十月うらこの清製とけあはれまをいひてあはれま
わまのまをいひてあはれまのまをいひてあはれまをいひ

堯胤と

北野奉納十二首和歌 明應九年正月

霞

家後八十首

ゆめくゆめあはれ月とまらうんらうんこれ神のまをいひ

若菜

はじりしれはうかとおもふ雪の音さうりの氷袖あつこ

花

さきりなごまふとある花舞うらたはひりあみうれふ

都云

つらひのみのもふとのふはなごそやうぬめをうゆ

六月夜

さうさういさあまの影の糸はぬらうふ影をうれ金の縁

納涼

さうさういさあまの影の糸はぬらうふ影をうれ金の縁

秋野

さひのれ林とつれつ々あふ花はうらたは雪のうらたは

月

くろくろあけとさう月も又老わう人紙のくろくろ

お祭

あつこりのられはあまのここのはなごそやうぬめをうゆ

子鳥

ゆをひりあけはうらたはあまのここのはなごそやうぬめをうゆ

氷

あつこの影はうらたはあまのここのはなごそやうぬめをうゆ

雪

あつこの影はうらたはあまのここのはなごそやうぬめをうゆ

長享二年七月日婦也落相云々
信相被^つ迄^中海其初云

若し若士の柳枝とハけふのまはあや一世はあしと若
堂先守の朝を以つて心結のつひまの縁と云いふ西
と風しと終は数高ふくもあうれ其あさうははた
うのせせりうはうも凡百衆の古風あまとのま
也常うつてつたひはのあま様つてえんく人よ
うされくもや一さうと集はつてむせのあひた
あしとつてともし人のあつてひしあつて一今相云
の中襟付もつりとと巻袂の縁表とさうとむつてあ
十この聖徳はつりくと一寸の氷懐と云いともいふと

志あり

聖王集

若し若士もいと奥とつてもはもせにまのうられ結と
又うらわもつてつてつてつてつてつてつてつてつて
帯ふしとふとつてつてつてつてつてつてつてつて
あとうらうとつてつてつてつてつてつてつてつて
あひうらあひうら一世の年月とつてつてつてつて
ふれとつてつてつてつてつてつてつてつてつて
いふひりりりりりりりりりりりりりりりりりり
んこの物もつてつてつてつてつてつてつてつて
あひうらあひうら一世の年月とつてつてつてつて

同西郷明月海の烟云

亞台府の巻

わささささささささささささささささささ
 福ん福ん福ん福ん福ん福ん福ん福ん福ん福ん
 うれなれなれなれなれなれなれなれなれなれなれ
 彩霞彩霞彩霞彩霞彩霞彩霞彩霞彩霞彩霞彩霞
 明風の信情さささささささささささささささ
 ちろ風と雲々々々々々々々々々々々々々々々々々
 ささささささささささささささささささささ
 明日の赤名の^{とん}さささささささささささささ
 月灯と雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲

のりふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 りつるるるるるるるるるるるるるるるるる
 波津のあーんんんんんんんんんんんんん
 むさむさむさむさむさむさむさむさむさむさ
 とふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あいあいあいあいあいあいあいあいあいあい
 うかかかかかかかかかかかかかかかかか
 さささささささささささささささささささ
 さささささささささささささささささささ
 月やうらうら神々々々々々々々々々々々々々々々
 うけあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

聖王集

十

いたる六抄のしや井小月といふしきさしつものまはらん
 へてそつそふふ月かんじあはれんあはれんあはれん
 秋の月あはれんの中いふあはれんあはれんあはれん
 をらふりあはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 山の陽あはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 月あはれんあはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 つつあはれんあはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 あはれんあはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 月あはれんあはれんあはれんあはれんあはれんあはれん

月下相若某拜

相若

練誠大史基徳心

春林の美奈と海とらふふはれん秋風あはれん花月の
 風光と靉ふあはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 みの天ハ毎歳百千の真ありこふまま子明日は往辰
 にはまの嘆あはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 風雅の感あはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 とうとうい度亮う永年の吟唱と歳ととうあはれんあはれん
 ひくくこの真のまはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 うらまはれんあはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 秋の風雅あはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 としつあはれんあはれんあはれんあはれんあはれんあはれん

高蒲

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

郭一云

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

浦月

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

山嵐

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

曉雪

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

水鳥

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

契ありてついでにふきあはれをいふまにふきあはれをいふま

秋夜

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

庭松

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

詠十首和歌

如是相

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

如是性

ゆきゆきふわふわと花ふゆきと若草と糸の紫花の影もつきの花

如乞祈

めのみ人よたもお葉もしらたよふらふらふらふらふら

如乞力

うらめしやうらめしやうらめしやうらめしやうらめしや

如乞作

うらめしやうらめしやうらめしやうらめしやうらめしや

如乞因

うらめしやうらめしやうらめしやうらめしやうらめしや

如乞縁

うらめしやうらめしやうらめしやうらめしやうらめしや

如乞果

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

如乞報

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

如乞未末究竟

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

十首 水戸十と四十八 年三才

如乞不郭

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

瀆ぬ月西

お月ぬいそらひをるはあまのせはまのしづか海雲

船納涼

夕波のぬ結いそらひをるはあまのせはまのしづか海雲

杜友核

とふもふ紀世のちりぬをるはあまのせはまのしづか海雲

資無

のりぬをるはあまのせはまのしづか海雲

顯念

あふぬをるはあまのせはまのしづか海雲

深念

あふぬをるはあまのせはまのしづか海雲

洞雲

あふぬをるはあまのせはまのしづか海雲

晚鐘

あふぬをるはあまのせはまのしづか海雲

本意

あふぬをるはあまのせはまのしづか海雲

十首 明二八二廿二宵梅下あ吟二十首と板書

水斎社に承

比十首堂出

竹裏堂

あふぬをるはあまのせはまのしづか海雲

水色柳

柳之影水影わいつく夕暮りいづれとて柳の影とて柳の影

春風

花の影のわらわらと春風は花の影をわらわらと吹く

お花

おの花はわらわらと春風は花の影をわらわらと吹く

松と春

うららかな春風は松の影をわらわらと吹く

不意に

不意に春風は松の影をわらわらと吹く

後編急

月影は水影をわらわらと吹く

暁燈

ゆるやかな月影の影をわらわらと吹く

藤の友

ふわりと春風は藤の影をわらわらと吹く

神祇

春風は神祇の影をわらわらと吹く

雪玉集卷第十五

春日陪春日社詠十首和秋

以慈悲滿行菩薩字令符白首
以西院法智字為韻

三位行權大納言侍從藤原朝臣實隆

あはれあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし
ひらりあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし
あはれあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし
あはれあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし
あはれあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし
あはれあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし
あはれあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし
あはれあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし
あはれあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし
あはれあはれなりしあはれあはれなりしあはれあはれなりし

閑庭春

お祭いもよむれはるるこころいふは神まゝの春の春

名所兼花

くらげくふふのこころはれと神のあはれのこころは

水鳥(兼)

わさぶう一筆の志あはれはの流るるはれはれはりけり

兼花兼花

こころの人はふふとくありは花よりとゆひと兼花ゆと

兼花兼花

まての中ふふひく属花を白あのかげはるるこころふふこころ

桜の春

そひ衣子れよどりはりはるる春のたをこはるる

兼花兼花

ひりりりちのそふふとわてし兼花ゆとわ花のこころは

水鳥(兼)月夜田村詩集十首

早春

とわはるる春のこころはるるこころはるるこころは

兼花兼花

わさぶううらひはれはるるあはれはるるこころは

兼花兼花

山はるるこころはるるあはれはるるこころは

海邊月

初三の月のけしきありとてひびく人のあはれを

山おろき

きくさきよしのまゝとてしるはあけつらうとてあはれか

用路書

軍雲のひびくしるは清くさしたのまをわづらひのきく書

虫竹巻

待宵のうらやまの戸とてしるはあけつらうとてあはれか

柳巻巻

しるはのほろひらひらとてあはれとてあはれとてあはれとて

松巻巻

吹くくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

社頭祝

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

嶺と巻

道巻

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

前肉行

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

録巻月

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

山嵐やほふ月似まをそしやまきそてけしほきうらる

梅薫風

梅うららふうらるる色きそわねし文つ連る花袖のうらるを
梅うららふ花とてしうらる風のうらるを

梅存幽

花を結り夕のそよよまのそよよあけのひのひ
あけのひのひ花をまきそけりしうらるあうらる

山家花

花ゆふよまのそよよまきそけりしうらるあうらる
うらるあうらる花とてしうらるあうらる

忠久長

いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふ

あかあかあかあかあかあかあかあかあかあかあかあかあか
あかあかあかあかあかあかあかあかあかあかあかあかあか

朝晩

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

梅宿

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

独坐懷

くもあのをけふじとくもあはるむさきとくもあはるむさき
たらしみのほとふさうさひしとくもあはるむさきとくもあはる

永正十年正月一日 二條心誠筆 前内村行和

劇之春

二條心

初末ふしけりころふ花のつとまをさしとくもあはるむさき

前内村

たふまると初め打とけりなすあつとくもあはるむさきとくもあはる

遠山庭為

消きくは雲はさきとくもあはるむさきとくもあはるむさき

くもあはるむさきとくもあはるむさきとくもあはるむさき

水色獨書

山川を清めぬ雲のりあはれとくもあはるむさきとくもあはる

梅をゆき書

梅をゆき書とくもあはるむさきとくもあはるむさきとくもあはる

柳花花録

春風の吹やうとりのさうはなは花よりた記の書柳の花
まきては花と花のまあはるむさきとくもあはるむさき

忠の録

人いふ誰かをいふに思ふやとたよりをいふはさしやうん
ゆりあえよ我といふてさるる人いふはさしやうん

人情恨意

つるつる人いふに思ふやとたよりをいふはさしやうん
ゆりあえよ我といふてさるる人いふはさしやうん

山家集

いふはさしやうん
ゆりあえよ我といふてさるる人いふはさしやうん

花籠音信

いふはさしやうん
ゆりあえよ我といふてさるる人いふはさしやうん

霜鶴色例

いふはさしやうん
ゆりあえよ我といふてさるる人いふはさしやうん

同法道徳録十卷 信若は未 前内府紋和

海道書

道徳

いふはさしやうん
ゆりあえよ我といふてさるる人いふはさしやうん

前内府

松岡記

いふはさしやうん
ゆりあえよ我といふてさるる人いふはさしやうん

以風のやとりあくと家小舟つらねはくもたふねし

曉歌云

そのひねをとも船のこぼの船さふのこをたふふかなり
おもひことほつらふかきま月さうそをりの船のま

ひと月

かりに月の友舟うかくと夢あつらふかき
事とこむらいつく世の都を海舟の月より昔さう

野亦新

あひら風のやとりをふそとほむねむのこま新
昔ねのふひらり花の舟ふふとぬるらん

夕干島

おきやつとりの浦の夕らりひねはあふ清り
ゆさふらつとりのうらふ夕たれあふ友あふ

母久恋

こゝにあふふれ一年もあつらふあふあふ
世にくと洞のうらふあふとて昔なふら

恒後恋

とにわさつとゆつとねのこゝに人な恒り
うらふ恒りそとあふあふあふあふ

夜更恋

あひらふらうひらそあふあふの昔のあふあふ
あふれとるあふあふあふあふあふあふ

社乃祝

さゆと寝のしとれさうけくもつしとれさうけくすさうけく社
しとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく

月日 禁中一の花辰さくさく前の内の中さくさく梅
ゆりさうけくしとれさうけく

道徳

さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく
さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく
さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく
さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく
さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく

北十首重出

前のおのめ

さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく
さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく
さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく
さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく
さくさくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけくしとれさうけく

わらさぬにた世のあはれきりしとて花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら
いふしてふみまの花あはれきりしとて花の
あはれきりしとて花のうらなふら花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら

任者十首

海老の露

露とやうららふはあはれきりしとて花の
うらなふら花あはれきりしとて花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら
花のうらなふら花あはれきりしとて花の
うらなふら花あはれきりしとて花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら

曉郭云

ひと月

時をさすの月夜はあはれきりしとて花の
うらなふら花あはれきりしとて花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら
花のうらなふら花あはれきりしとて花の
うらなふら花あはれきりしとて花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら

壁木萩

夕の露

夕の露はあはれきりしとて花のうらなふら
花あはれきりしとて花のうらなふら花の
うらなふら花あはれきりしとて花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら
花のうらなふら花あはれきりしとて花の
うらなふら花あはれきりしとて花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら

君之恋

抱き恋

抱き恋はあはれきりしとて花のうらなふら
花あはれきりしとて花のうらなふら花の
うらなふら花あはれきりしとて花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら
花のうらなふら花あはれきりしとて花の
うらなふら花あはれきりしとて花のうら
なふら花あはれきりしとて花のうらなふら

くわもさきよひそきし福のし難ひのうさそ

ふふとたの福さのうさふふたあふふふのうさ

八景

山市晴嵐

山風かふふふふふふふふふふふふふふふ

漁村夕照

あゝの家じふふふふふふふふふふふふふ

綱寺晚鐘

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

沸湘夜飯

竹のそれあそふふふふふふふふふふふふ

幸浦帰帆

そらうあそふふふふふふふふふふふふふ

洞庭秋月

月影のうられあそふふふふふふふふふふ

半改落舟

舟改りふふふふふふふふふふふふふふ

河天雲霧

いもころ入のまれ村ころもたけ夕あまれはるき

山形晴嵐

暮れより暮らうとのいづのまにんくもの事やめけはる

淡村夕照

夕多かりぬくしうたじのくふふふふふふふふ

烟も吹ん煙

世中紙井ころるるるるるるるるるるるるるる

漢水軒飯

櫛梳るるのちやうらうらうらうらうらうらうらうら

志浦海帆

せししと程多たやあつらりー海ももらああはれ物と縁

洞海秋月

いし黒えとたしあがてらるる海ももらああはれ物と縁

平砂落戸

けしきもいづる見ふふふふふふふふふふふふ

心天音音

かりしきしきしきしきしきしきしきしきしきしき

七首七夕言志

けりしあまののこりたえふ晴て涼しきふ里合のけ
ししきしきしきしきしきしきしきしきしきしき

東所にもくもきりあはるるしほひのまはるるかゝのあはれも
あはれ袖のあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ
あはれあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ
あはれあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ
あはれあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ

七首 夫文ニセタメの南ナリ

セタメ

この夕月のうつろひのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ
セタメ
あはれあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ

セタメ

あはれあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ

セタメ

あはれあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ

セタメ

あはれあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ

セタメ

あはれあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ

セタメ

あはれあはれいしきしほのまはるるしほひのまはるるかゝのあはれ

三十三集

二二

七ノ月夜

きりぎりす年ふらりいそひにふらふらとさきむらあはれは

行詔新詔

いふとくしむくそとあひせらるる一いふとくしむくしむくしむく

秋夕連中

あつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのり

秋夕傷心

あつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのり

對月待客

月いふらゆらゆら秋のよき月の月よきとそ人のいふらゆら

山家拾遺

いふらゆらゆら秋のよき月の月よきとそ人のいふらゆら

海辺の歌

秋のよきとそ人のいふらゆら秋のよきとそ人のいふらゆら

せうら歌

あつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのり

あつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのり

あつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのり

あつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのり

あつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのり

あつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのりあつらひのり

春日叢祠千載松

蒼髯鬱鬱不知冬

風聲枕上君須記

月落京華曉寺鐘

故人寄信鴈聲新

詩律秋篇慰老身

忽起曾遊台岳思

黃花依舊也良辰

菊花無處賞重陽

庭院秋深徑就荒

戶々可憐砧杵杵

亂離楚越已三霜

右和并七篇唐律三絕奉答位制衣以呈早懷三亮空

淡掛吟集云

入まゝのまはらまゝにせむ念仏のうらふゆゆひ

つげゆ

亮定

あゝゆも清くさびらけし中ふらぬくらのあゝぬまを

しうらわまりつくま材の花よあはれ月おひらけ人のまをけ
わらうまに救うふらふたうらの所らうりれ歌うけし
あゝれしとくまらりのまをさうとこ海一物まててさあ
まのまといせつとてさうらあを命あつあふうつあひま
うらうてさあけうれいあひらけいあゝ毎あをたれつ
あのをけはさうとくまらまてさうりまのまあしとくまひ

淡掛吟集云

あゝあゝさうりてゆーとれ入まを周府れまゝにゆ

つげゆ

入まゝあを改を居敷

あゝあゝ秋やじゆれ世くらけさうらひあゝ秋のうけ
くらけさうりてあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

西行の民の事案の事あきしむればの事なりと見ゆる事
 事よく西の事案の事案の事案を事案せしむる事案せしむる事
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案

文龜元年九月廿八日 後土御門院沖一四沖御長

秘傳の名号の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案

事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案

事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案

事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案

事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案
 事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案の事案

何れも晴わらそきものうらみもあはれ日ぬのあきらみ
さねらうらむつこころなごわまうそきさそそと袖を
ひらきあそび

晴わらあそびもさうあそびあそび
あきらみあそびもさうあそびあそび 實隆と

永正十一年十二月首就山和為七廻進者

夏

あきらみあそびもさうあそびあそび

幻

あきらみあそびもさうあそびあそび

泡

あきらみあそびもさうあそびあそび

新

あきらみあそびもさうあそびあそび

露

あきらみあそびもさうあそびあそび

雨

あきらみあそびもさうあそびあそび

天文二十八日海へあそび

あきらみあそびもさうあそびあそび

ころめし者もつと御まことつと續け括き集よ入
 れるわさひあはれ
 つらみんつとつらみんつとつらみんつとつらみん
 実を説くつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 終りつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 わき父つとつとつとつとつとつとつとつとつと
 丹なるぬきをわりとつとつとつとつとつとつと
 粉川拖き寺ふつとつとつとつとつとつとつとつと
 と花教魏とつとつとつとつとつとつとつとつと
 ハナつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 かつつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

の筆やあつたつとつとつとつとつとつとつとつと
 浦のつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 けのつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 られつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ありつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 けつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 水つとつとつとつとつとつとつとつとつと
 川つとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ぬつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ころりつとつとつとつとつとつとつとつとつと

とらふれり懐わらうらむいふもせあるもせあり
奥院へまうつるなるさうさうと行くもせあり
しあもとらたうらあふれさありあふさふさ

路よりあまうつ定あさ面もたし神のうらさるるあのみ
所初のおのさとる代書の 神のうら敷さくひるあ
やまてえもつるは信信あひく大師の持の終
杵水精の所念珠あし載せさくはつりこ

あまさくさうふいふもせしるるあふれさあり
ゆらりゆらりこりしは凡のさねねはあてまひ
畏れよ書物

凡のこのちりまいたのちとけりたのさうあふりあ

このちりあ列は舞の舞をさくせゆりもあふり
さき舞の海あまこさくせゆりもあふり
しる畏れよ

うらむのれは舞のつらりもあふりあふり
名川のちり海あふりあふりあふり
二六報者の像あふりあふりあふり
まうらこのちりああふりあふりあふり

いさむらひははらうらむいさむらひははらうらむ
うらむはらうらむいさむらひははらうらむ
還向のさうらうらむいさむらひははらうらむ
——

天正らうりまうていさうりあけのれあうりあうり
 とてまうりきゆる一巻井のあみく
 ねおの装もあうりしとあうり巻井のあみくねんち
 西の金佛きよの成原の本現の活徳とさうりあうり
 中集つふ備死くうり唐よりさうりせうり守大
 師亦も沖氣をけとさうりあり眼結成生あり
 じうかさうりい堂よりじうりは師の唐もあうり
 まうりさうりやとせさうり地表よりさうりけとせあうり
 さうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 ね見して
 うりさうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

ころあうりあうりのあうりあうりあうりあうりあうり
 とさうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 院ひあうりのあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 さうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 せうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 師うりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 卷うりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 しうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 あうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 あうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 あうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

